

H26(2014).11

地域と共にある学校づくり

信州型コミュニティスクール

取組事例編 2



今回は、信州型CSモデル市町村の辰野中学校から学校と地域が一体となった活動と、野岸小学校から信州型CSの立ち上げの様子を紹介いたします。

学校・家庭・地域で生徒の頑張りを認めていこう…辰中家庭学習プラン「^{かんれん}貫練」を一つの軸にして ～辰野町立辰野中学校～

1 みんなでみる・取り組む・育てる「貫練」

辰中家庭学習プラン「貫練」は、間違いを訂正した家庭学習の数学プリント（20問）を、生徒が昼休みに持って行くと、採点ボランティアがそれを確認してくれるというものです。

辰野中学校ではこの「貫練」を、「学校・家庭・地域で生徒の頑張りを認めていこう。」「努力は認められる経験を積ませていこう。」「毎日取り組むことに価値があると生徒達が実感できることを大切にしよう。」という願いを、地域の皆さんと共有しながら進めています。

3 一年が過ぎて（成果）

時間になると「貫練」の教室には、○付けをしてもらう生徒が途切れることなく入ってきます。そこには、やらされているわけではなく、分きたいと自ら求めてくる姿があります。現在「数学」を取り上げて行っていますが、学校全体の家庭学習に取り組む時間数も確実に増加しており、他教科への好影響も見られるようになってきています。学校の願いを家庭・地域と共に三者で進めている「貫練」は、着実に生徒の学習意欲向上に結びついています。

2 地域への呼びかけとPTAの取り組み（運営委員会）

スタートは昨年（H25）の10月。研究主任が中心となって準備が進められました。スタート当初は教職員が採点を行っていましたが、ボランティアの方にもやっていただこうと、地元新聞の協力を得て募集記事を掲載しました。

こうして平成26年度は、地域ボランティアも加わった「貫練」が始まりました。5月からはPTAも参画し、学校とPTAが協働して新しい家庭教育のあり方を模索しています。学校で考えている形は、保護者や地域を巻き込んだ家庭学習、補充学習のシステムです。

そのねらいは「単に宿題を提出して終わるのではなく、生徒自らが課題を探求する形へと変えたい。自ら学び、分かることの喜びを実感してほしい。」というものです。PTAとしても全面的に協力し、「親の研修委員会」が採点事業をサポートしています。採点ボランティアとして参加するだけでなく、「貫練」の内容をPTA新聞で家庭に周知し、この新しい家庭学習の輪を拡げ全家庭で取り組めるように学校を支えてくれています。

家庭学習モデル「貫練」 みんなで「みる」「取り組む」「育てる」



（南信教育事務所生涯学習課 指導主事 塩澤 秀彦）

地域とのつながりづくりから始まった信州型コミュニティスクール(CS)の構築 ～小諸市立野岸小学校～

小諸市立野岸小学校は信州型CSの構築をするにあたり、地域とのつながりづくりから進めてきました。

1 学校が地域の方と直にふれあうこと

毎年、野岸小学校では運動会の駐車場確保に困っていました。そこで、学校周辺の空き地を駐車場としてお借りするために、職員が一軒一軒地域へ足を運んでお願いをしてきました。地域の方のご厚意で駐車場が借りられることになると、今度はお礼に地域の方たちを運動会に招待しました。また、その後も、管楽部や合唱部のコンサート、参観日の通知等を配布する際も、職員が地域へ足を運び手渡しをすることを大切にしてきました。

このような学校職員が直に地域の方とふれあう対応は、学校と地域の方とのつながりを深めていくことになりました。



学校支援に関する地域の方との話し合い

2 区長会の理解を得ること

地域活動の核となるのは区長です。野岸小学校では、区長に学校の現状を理解し、関心を高めていただくために、学校代表が地区の会合に参加したり、授業参観や給食試食、職員との懇談会に招いたりして取り組んできました。

そこで、学校の現状や課題、地域への要望を伝えたり、実際の子どもの様子を見ていただいたりする中で、区長に学校運営について理解を深めていただけてきました。

こうした取組から、学校と区長会のつながりができ、信州型CSの立ち上げについて区長会の理解を得られるようになりました。

3 学校職員が地域とのつながりの大切さを実感したこと

管楽部が全国大会の出場を決め、支えてくれた方々に感謝の意を込めて「ありがとうコンサート」を開きました。区長を通して地域の方々に回覧板でお知らせしたところ、会場が満席で立ち見の方々が出るくらい盛況となりました。管楽部の子ども達も先生方も地域に支えられて活動できていると感じ、熱のこもった演奏ができました。

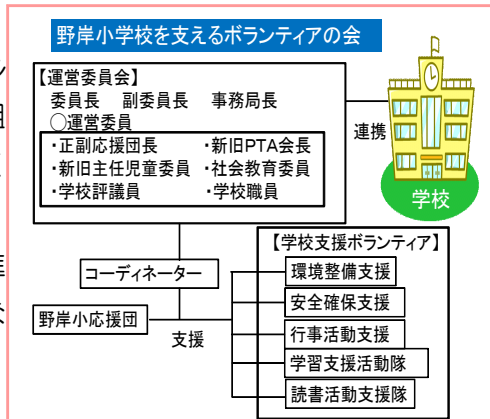
また、2月の大雪で臨時休校になった時は、区長をはじめとした地域の方々が校舎内外や通学路の雪かきを行ってくれました。

このような積み重ねは、職員にとっても、地域とつながることの大切さの実感につながっています。

野岸小では職員が地域とつながることの大切さを感じながら、信州型CSを立ち上げていきました。右図の組織は、区長会をはじめとした地域の方々と相談してつくり上げたものです。

今後は、この組織を生かして、地域との連携が一層進められますが、つながりを大切に、その良さを実感しながら進めることに変わりはありません。

(東信教育事務所生涯学習課 指導主事 佐々木 哲也)



信州型コミュニティスクールQ&A

Q2 信州型コミュニティスクール（信州型CS）は、国が進めているコミュニティ・スクール（CS）と何が違うのですか？

A2 信州型CSもCSも、地域と共にある学校をめざすための仕組みの1つです。

CSは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5」に基づいて、市町村教育委員会が指定し「学校運営協議会」を設置した学校のことを言います。この法律では次のように定めています。

- ① 教育委員会は、学校を指定して、学校の運営に関して協議する機関として、学校運営協議会を置くことができます。
- ② 学校運営協議会の委員は、保護者や地域の皆さんの中から、教育委員会が任命します。
- ③ 指定された学校の校長は、教育課程の編成などについての学校運営の基本的な方針を作成し、学校運営協議会の承認を得なければなりません。
- ④ 学校運営協議会は、学校の運営について、教育委員会や校長に対して、意見を述べるすることができます。
- ⑤ 学校運営協議会は、学校の教職員の採用などについて、任命権を持つ教育委員会に意見を述べるすることができます。

CSでは、地域住民が学校運営に参画する（協議の場を設け地域住民の声を学校運営に反映させる）ことが、法律で保障されているところが大きな特徴です。なお、学校支援ボランティアについては特に定めているものではありません。



一方、信州型CSは、学校支援ボランティアをベースにして、CSの要素（協議の場を設け地域住民の声を学校運営に反映させる）を取り込んだ仕組みと言えます。ただし、信州型CSの「運営委員会」は、「学校運営協議会」のような法的な権限を持たせるものではありません。話し合いの場をつくることで、地域の声を聞かせていただくと共に、子どもへの願いや課題等を共有し協働を促すことをねらいとしています。

このように、信州型CSは、学校支援ボランティアと話し合いの場を仕組みの中で一体的に行われるよう位置づけています。具体的には、委員にボランティアの代表やコーディネーターの方に入っていたり、話し合いの中で学校支援の方針決定や調整なども行っていただいたりします。これにより、運営委員会で話し合ったことは、実際に支援活動を行う地域住民と共有されることになり、学校と地域がめざす方向をそろえながら一体となって子どもを育てることにつながります。

もちろん、CSであっても、学校支援をしてはいけないという規定はありません。県内でCSに指定されている学校のほとんどは、学校支援と一体的に行っています。このように、CSであっても、学校支援ボランティアと一体的に行われ、学校運営協議会が信州型CSの要件を満たすものであれば、信州型CSのタイプの1つと考えています。CSを推進する文部科学省初等中等教育局では、平成27年度の方角として、学校運営協議会と学校支援の一体的な運用を新たな方向として打ち出しています。

学校支援コーディネータースキルアップ研修会

講師 東京都小平市立学校 学校支援コーディネーター連絡協議会
会長 布 昭子 さん

第1回 「これが大事！リスクマネジメント」(参加者 112名)

学校支援ボランティアをめぐって、さまざまな問題が起こる場合があります。コーディネーターとして関係者の思いや願いを受けとめ、伝え、調整する仕事には、マネジメント、トレーニング、カウンセリングといった機能も含まれます。また、学校の方針や教育課程を理解し、子どもたちの実態を把握し、人々とよい関係をつくっていくことも大切です。そのような事柄を学んだ後、グループで、みんなが安心できるルールづくりに取り組みました。

第2回 「知っておきたい 地域の宝活用術」(参加者 104名)

地域の協力者の都合が急に悪くなった。使用する機器が動かない。子どもがふらっと教室を出て行ってしまった…。はじめに、そんな予期せぬ事態にどのように備えるか考えました。続いて、地域の教育資源を活用する際の流れを学び、「食」、「地域の歴史や文化」、「流通の仕組み」といった具体的なテーマで、地域の宝をどのように学習の場面で活用するか、グループごとに話し合いました。

地域は大きな教室。コーディネーターは、地域に開かれた窓です。

信頼関係を築くためには、ルールが必要。ノーと言える勇気、率直に言える勇気が必要です。

いろいろな大人が、がんばっている子どもを認めていく。そっと距離感を持ちながら。そのようなことがいくつも重なっていく。それが、子どもが輝くということかな、と思います。

多くの方に関わっていただいたおかげで、今、私のいる学校には、休職している先生も、授業中に寝ている子どもも、いません。不登校の子どもも、減りました。少しずつ、少しずつの変化でした。

苦しむ子が、1人でも2人でも減っていくことが大事。そのきっかけづくりがこのコミュニティースクールとも言えます。今やっていることが、長野の未来をひらいていくと信じます。

教員はみんな、子どもをよくしたいと思っています。多くの大人が関わって、子どもを多角的に見るということは、子どもをよくしたいと思うチャンネルのひとつです。



(長野県生涯学習推進センター 専門主事 藤江 玲子)

■■ お問い合わせ先 ■■

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 Tel.026-235-7437 e-mail:bunsho@pref.nagano.lg.jp
東信教育事務所生涯学習課 Tel.0267-31-0252 南信教育事務所生涯学習課 Tel.0265-76-6861
南信教育事務所飯田事務所 Tel.0265-53-0460 中信教育事務所生涯学習課 Tel.0263-40-1977
北信教育事務所生涯学習課 Tel.026-234-9552 長野県生涯学習推進センター Tel.0263-53-8822

※この資料は、下記URLよりダウンロードできますので、ご活用ください。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/cs.html>